

すべての外国につながる子ども若者の 教育保障を考えるシンポジウム —高校進学ガイダンス主催者交流会in名古屋—

参加報告

国際学部客員准教授 若林 秀樹

多言語による進学ガイダンスはHANDSの主な活動の1つですが、“高校進学ガイダンス主催者交流会”は、各地で行われているガイダンスの主催団体が集まり、毎年1月に開催されているものです。今年度は1月13日に名古屋市で開催され、100名を超える参加者による熱い一日となりました。

午前は、1) 小中高での日本語指導の現状と課題、2) 在留資格についての取り組み、3) 障害がある外国人児童生徒への指導の3グループに分かれ、実践発表や意見交換が行われました。不就学の子どもに対する支援のあり方、在留資格を専門とする弁護士による情報提供、深刻な課題となってきた障害がある外国人児童生徒についてなど、これからの支援を考えるうえで欠かせない内容ばかりでした。

午後の全体会では、文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課の三好圭課長から外国人児童生徒教育施策に関する報告がありました。初等中等教育局が担っていた外国人児童生徒教育施策は、2018年に新規開設された同課に移管され、外国人児童生徒教育施策はオープンかつ積極的なものに方向転換が図られました。

たとえば、令和元年9月27日の“外国人の子どもの就学状況等調査結果(速報)”における「不

就学の外国人の子どもは2万人以上」という発表は、衝撃の告白とも言えるものでした。報告によれば、令和2年度は日本語教育事業や教員研修関連費用も従来の数倍の予算を確保したとのこと、適切に活用されれば外国人の子ども支援は目に見えて改善されるだろうと感じました。

愛知淑徳大学交流文化学部交流文化学科の小島祥美准教授からは、『全国の高校入試の状況とその改善策』として、全国各自治体における高校入試制度を総括した報告がありました。外国人の高校入試制度については、小島氏と中国帰国者センターがまとめ役となり、毎年の結果がWEBにアップされていますが、栃木県については筆者が県教委の監修を経て情報提供しています。

最新の集計結果によれば、入試科目の軽減・問題用紙ルビふり・辞書持ち込みなどの、いわゆる「特別措置」が38地域(31都道府県+7政令都市等)で実施され、外国につながる子どもが入学できる定員、いわゆる「特別枠」が25地域(20都道府県+5政令都市等)に設定されていることが分かりました。また、高校入学後の日本語や教科支援が実施される地域は、38の都道府県等に及ぶことも報告されました。

なお、都道府県及び政令指定都市別の最新入試制度詳細は下記URLでご覧いただくことができます。

https://www.kikokusha-center.or.jp/shien_joho/shingaku/kokonyushi/kokonyushi_top.htm

本交流会は発足10年を超え、その目的が、“情報の共有”から“格差是正の提案”に変わりつつあります。これまでの成果として見える化できた、ガイダンス活動における地域格差や、高校入試制度における自治体差を、全国的な改善に

つなげる必要があるからです。それを象徴するものとして、交流会の最後には、「全国の自治体および教育委員会に対する提案」、「国に対する提案」の2つの提言が発表されました。ますます多様化が進む中、すべての子どもに等しく教育が保障される社会の実現を目指し、これからも微力ながら関わり続けたいと感じた交流会でした。

多言語による高校進学ガイダンスを振り返って



宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターコーディネーター

鄭安君

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター HANDS 事業の代表的行事の一つである多言語による高校進学ガイダンスは、今年度で10年目を迎えた。今年度では、下野新聞社主催ガイダンスへの参加および栃木市教育委員会との

共催の形で下記の3回の開催を企画した。うち、10月12日の栃木市教育委員会との共催ガイダンスは台風19号の上陸で中止となったため、本報告は下野新聞社主催への参加ガイダンスについてまとめる。

2019年多言語による高校進学ガイダンス

	ガイダンス名称	開催団体等	期日・会場	参加者数	対応言語（通訳）
1	栃木県高等学校進学フェア (多言語による高校進学ガイダンス)	下野新聞社主催への参加	9/16 マロニエプラザ (宇都宮会場)	16人	英語、ポルトガル語、フィリピン語、中国語、タイ語、ベトナム語、スペイン語
2	栃木県高等学校進学フェア (多言語による高校進学ガイダンス)	下野新聞社主催への参加	9/23 栃木文化会館 (栃木会場)	16人	英語、ポルトガル語、フィリピン語、中国語、ベトナム語、スペイン語
3	子どもたちの明日を考えるつどい～多言語による進学・学校生活ガイダンス～	栃木市教育委員会と共催	10/12 栃木市役所	18人 (予定) 台風で中止	英語、モンゴル語、ネパール語、フィリピン語、スペイン語

※参加者数は、ガイダンスに参加した児童生徒の人数である。

下野新聞社主催栃木県高等学校進学フェアへの参加の形で開催した多言語による高校進学ガイダンスは昨年度からスタートしたものである。

昨年度は宇都宮会場のみで行ったが、今年度は宇都宮会場と栃木会場の2回開催となった。

今年度のガイダンスでは、昨年度と異なり、